

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 橋北こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	コミュニケーション力のある幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが、保育教諭や友だちに「話したい」と思える環境を作ることが大切だと考え、じっくりと子どもの話に耳を傾ける関わりをしてきた。</li> <li>・自分のやりたい思いや感情を表出しようとする姿はあるが、友だちや相手とのやりとりになると、言葉が出なかったり、言葉が足らず思い違いのためぶつかり合ったりすることがあった。互いの思いを保育教諭が聞く時には、どんな気持ちでも安心して表出できるようにしてきた。少しずつ、相手にも思いがある事を知り、素直に思いを表現するようになってきた。</li> <li>・絵本や紙芝居を継続的に読み、様々な言葉や物語に触れる機会を作るようになってきた。</li> <li>・子どもの行動や言葉は、どのような気持ちからなのか、きっかけやその前の場面の姿に気づき、思いを代弁をしていけるようにしたい。また、子どもの小さな変化や表出、表情をキャッチしていくことを大切にしていきたい。</li> </ul>	
重点目標 2	乳幼児の姿・発達に応じた教育・保育の工夫	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの興味関心に合わせ、玩具やスペースなど環境を整えていくようにした。</li> <li>・一人一人の発達に応じた教育・保育が進められているか、職員間で子どもの姿を共有し確認するようになってきた。そこで保育教諭も様々な視点に気づき、試したり改善したことで、子どもたちはやりたい遊びを実現していく楽しさ、友だちとイメージを合わせて遊ぶおもしろさを感じる事ができた。</li> <li>・今、子どもたちは何に興味があるのか、どのような環境設定（物的、人的）をする力が育つのか、「遊びを通した学び」についての研修をさらに進めていく。また、保育教諭が、子どもの姿に合わせて柔軟に対応していく力をつけていく。</li> <li>・子どもの発信からの遊びをもっと広げていくことができるとよかった。子どもがワクワクするごっこ遊びなどに取り組んでいきたい。</li> </ul>	
重点目標 3	橋北小学校、中学校、地域との交流の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園周辺や隣の交流会館広場へ出かける機会を持ったことで、季節の移り変わりを感じたり、地域の方と挨拶を交わしたりできた。今後さらに、地域とかかわっていく機会を計画していきたい。</li> <li>・園外に出かけた時に、職員が積極的に地域の方々へ挨拶をするようになってきたことで子ども達も挨拶をするようになった。また、近隣の方にも子どもたちの事を知ってもらう良い機会となった。</li> <li>・万古焼の絵付け体験のために地域を歩いたことは、子どもたちにとってよい経験となった。地域的に交通量も多く、安全面に十分配慮する必要がある。近くの公園や小・中学校へ出かけるなど、安全に楽しむことができる園外保育を計画的に取り入れていく。</li> <li>・学びの一体化など小学校の授業公開の研修を通して、これからの子どもの育ちについて見通しを持つことができた。5歳児担任だけでなく、幅広く職員が参加し学ぶことができるようにしたい。</li> </ul>	

重点目標 4	子育て支援活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎時に保護者との会話を大切にし、保護者が抱えている子育てに対する不安や悩みを共に考えるようにした。また、家庭での様子についても把握できるように努めた。</li> <li>・保護者には職員から積極的に声掛けをするように心掛けた。共に子育てをしていく姿勢を保護者に伝えられたことは、子どもにとっても良かったと思う。</li> <li>・担任以外の保護者にも、積極的に声をかけ、一人一人の子どもを、園全体で見守り大切にしている姿勢で取り組んだ。</li> <li>・家庭の在り方も多様化してきている。子どもの発達だけでなく、重層的な支援は欠かせなくなってきた。</li> <li>・子育て支援センターと、在園児との交流を持つことができ、利用者の方々にはこども園のこと、子どもの様子を知ってもらう良い機会となった。内容を工夫しながら継続していく。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・遊びの展開や環境設定などについて継続的に話し合い取り組むことで、こども理解を深めていくようにする。
- ・クラスや学年を超えて園全体の子ども様子について職員間で言葉を交わし、語り合う機会や時間が増えた。そのことがこども理解につながり、組織力向上にもつながっていくと思われる。子どもが主体的に遊びたい、やってみたいと思えるような援助や環境設定について、学年打合せを定期的に行い、取り組みの見直しを図っていく。
- ・課題点について、ひとつひとつ取り組めることから確実に実施していくようにする。
- ・特別支援教育の職員研修をさらに深め、子ども一人一人が安心して過ごせる環境を工夫していく。
- ・職員自ら地域を知り、園外保育の工夫を行っていききたい。

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 塩浜こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サーキット遊び、固定遊具、鬼遊び、ボール遊びなど思う存分身体を動かして遊んだ。スイングスキップ、縄跳び、雲梯に挑戦する中であきらめずに根気よく取り組む姿がみられた。できるようになったことで、達成感を味わい、その後の生活でも自信をもって行動する姿が多くなった。</li> <li>・子どもたちの姿から課題を見出し、大学や専門機関と連携をとり研修することで発達に合わせた具体的なねらいや指導方法を確認することができた。</li> <li>・全体活動で取り組んだドッジボール、リレーで積極的に体を動かして遊ぶきっかけになり、身体を動かして遊ぶ楽しさが広がった。</li> <li>・食育では野菜を育て生長を見るだけではなく、給食の食材として使用したり、家庭に持ち帰るなどして興味を広げ、健康な体づくりに気付けるよう工夫した。</li> <li>・サーキット遊び、園外保育などは、年間を通して計画を立て、声を掛け合って継続的に行っていく必要がある。</li> </ul>	
重点目標 2	遊びを通した学び（心がワクワクする）の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の興味が広がるように、幼児の目の高さに飼育物や自然物の設定をした。実際に友だちと話をしながら、それらに触れ合うことで、細かなことに気付いたり、自分から調べてみようという姿が見られ、科学性の芽生えに繋がった。</li> <li>・保育教諭も共に驚いたり幼児の気づきを喜んだり言葉をかけたりすることで、小さな発見もクラス全体の発見に結び付くなど広がりが見られた。</li> <li>・子どもの姿やつぶやきから、子どもが今何に興味を持っているのか考え、環境設定していくことを意識できた。また、明日もやりたいという意欲に繋がった。しかし、保育教諭自身がそれを子どもと一緒に楽しむことが難しいこともあった。</li> <li>・環境設定や教材を職員間で見合い、話し合う時間を持つようにしていく必要がある。</li> </ul>	
重点目標 3	豊かにかかわり合おうとする力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを伝えたい気持ちが強く、保育教諭や友だちの話を聞けない幼児もいた。伝えたい気持ちを受け止め、幼児の話をしっかりと聞き丁寧に答えるように心掛けたうえで、人の話を聞くことの大切さをその都度伝えた。そうすることで、トラブルがあった時に友だちのことに興味をもち、子ども同士が話し合ったり見守る姿が見られるようになった。</li> <li>・言葉だけでなく仕草、目線、表情など全身を使って伝え、子ども同士がそれを読み取ろうとする様子が見られるようになった。</li> <li>・遊びの中で異年齢の交流も広がり、憧れの気持ちや思いやる気持ちも芽生え、園全体で関わり合いを大切にすることができた。</li> <li>・園内研修での学びを共有することが難しく課題である。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・体づくりにおいては、保育者一人一人がその大切さを理解し、どのような活動がどう体づくりに結び付くか理解したうえで、保育環境の作り方を丁寧に確認していく。
- ・日々のカンファレンスや園内研修の場で幼児の気づきやつぶやきを出し合い、園全体の学びとし環境構成につなげていく。
- ・年齢、発達に応じた遊びの研修を進め、活動におけるねらいを明確にし、活動の後振り返りを行いながら、子ども理解につながる研修の充実を図る。
- ・野菜の栽培を通して、生物としての生長を観察するだけでなく、食材としての野菜にも興味関心を広げ、自分の身体を作る大切な食材として認識できる取り組みや楽しんで食べる活動を進める。
- ・まずは、保育教諭が幼児の気持ちを受け止め寄り添い、幼児が自分のことを語る様子や友だちの気持ちを聞き合う場面を事例などで記録し園全体の学びにつなげる。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 保々こども園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	夢中になって遊ぶ《学ぶ》教育・保育内容の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>・ 幼児教育センターの公開保育を受け他園の保育教諭や保育士と共に研修した。3歳児以上児の保育においては「夢中になって遊ぶ」ことを視点にすることで、「子どもが主体的に活動する環境」について見直す機会となり学びにつながった。今後も少人数グループの参加型研修を継続し職員自身の考えや思いを出し合い子どもの姿を語り合える職員集団をめざしたい。</p> <p>・ 「めざす園の姿」「めざす子どもの姿」を職員が共通認識を持って保育を展開したい。</p> <p>・ 保育教諭は子ども達と共に遊びを楽しみながらイメージを共有することに努め、遊びに見合う素材や道具を一緒に準備するようにした。子ども達と一緒に遊んだことが遊びの充実につながった。今後も身近な自然物や様々な素材を取り入れた魅力的な環境づくりをしていきたい。</p>	
重点目標 2	健康で安全・安心な生活の保障	3
主な方策 成果と課題	<p>・ うがい・手洗いは、感染症防止や自分の健康を守るために必要であることを継続して知らせた。『早ね・早起き・朝ごはん』も呼び掛け、生活リズムの定着に向けて子ども達と取り組んでいるが、家庭にも必要性を知らせ家庭と共に生活リズムの定着や心地よい挨拶の交わり合いに向けて大人が姿を示しながら取り組みを進めたい。</p> <p>・ 楽しみながら様々な身体部分を使う経験ができる遊びを意識して取り入れた。体験型幼児教育活動事業では体を動かす活動を中心に計画したことで、子ども達の意欲も高まり積極的に体を動かして遊ぶ姿が見られた。また、4・5歳児が声を掛け合い、リレーやドッジボール、サッカーなどを楽しむ姿も見られた。経験を積み重ねることで体力もつき、身のこなしもしなやかになってきている。異年齢の姿が刺激にもなり、異年齢の子どもと一緒に楽しむ場面も出てきた。保護者ニーズも考慮し様々な体験活動を計画的に取り入れたい。</p>	
重点目標 3	特別支援教育・保育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>・ 職員で声を掛け合い月1回の定期的な会議を持った。それぞれの職員が子どもへの関わりについて大切にしていることや課題に感じていることなどを事例にあげ、意見を出し合って検討したことが職員間のスキルアップにつながった。今後も年間計画に位置付け、職員の資質向上に努めたい。</p> <p>・ 幼児教育センター研修やあけぼの巡回研修、保育所等訪問事業などを通しての学びを職員間で共有し、保育における手立てや配慮の見直しをして実践につなげることができた。今後も子どもたちの姿から適切な手立てや支援の在り方を探り、子ども達と共に遊びや生活環境の場を作り上げていきたい。</p>	

重点目標 4	小・中・高・プラザ・地域・保護者との連携と協働	3
主な方策 成果と課題	<p>・今年度、四同研の提案の機会があった。日々の保育が「差別解消」や「人を大切にする保育」につながっているのかを職員間で具体的な保育実践を出し合い、自分を振り返ることでさらに実践につなげる機会となった。また、保護者の言葉の奥にある気持ちを意識して考えていくことは差別の現実を知ることであると学んだ。</p> <p>・保々地区「育ちのプログラム研修」の一環として公開保育・授業・事後研修を行った。「6視点」を基に、子どもの姿やエピソードをもとにグループ討議をすることで、子ども達の今後の成長を見通した話し合いができた。討議の時間が短く討議内容の深まりの点で課題が残るため、実践につながる有意義な討議となるよう工夫する。また、この研修の本来の目的を確認して共通理解をもって臨むことが必要だと感じる。</p> <p>・保護者アンケートからも多様な価値観や保護者ニーズが感じられる。校園と保護者地域の協働のもと保育教育を進めていく。</p>	

## 2 改善方針

- 「こどもの主体性を育む」という視点において、日々の保育だけでなく行事のあり方についても保育教諭が議論を重ねる必要がある。豊かな遊びを通して様々な力が育まれていくという発想で子どもの育ちや保育を考えたい。
- 今年度より地域交流事業・園づくり支援事業が導入され子ども達が様々なことを体験し、興味・関心を持つきっかけとなっている。計画的に教育課程に組み込み、子ども達の達成感や成功体験につながる取り組みにしたい。5歳児の園外保育事業でのSDGSについて大きな学びとなった。今後も子ども達との対話を大事にした取り組みを進めたい。
- 高校生、中学生、小学生との交流を持つ機会があり、教職員の相互交流にもなった。その反面、十分な打ち合わせや振り返りの機会を持つことが難しかったこともあった。子どもの育ちにおける協議等において、今後も学びの連続性を共有していきたい。



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 楠こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	基本的な生活習慣の自立 健康な身体づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・挨拶は保育者から積極的に行うことで子どもも心地よさを感じ、自分から親しみを込めて挨拶をする子が増えてきた。</li><li>・身の回りの始末については日々の積み重ねを大切に、出来ない所を手助けし励ましながら取り組むことで少しずつ自立につなげる事が出来た。少しの成長や意欲を認めることで子どものやる気を引き出せるように心掛けた。</li><li>・身体作りに関しては年齢ごとに成長や発達に応じ計画的にサーキット活動やリズム遊び、体操やマラソン等に取り組んできた。外部講師を招き指導してもらう事で子どもへの手立てが明らかになった。職員間で共有することで保育者の意識が高まり教育課程に反映することが出来た。今後も園全体で通年を通して取り組みを進める必要がある。</li></ul>	
重点目標2	夢中になって遊ぶ活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・園内で研修し職員間で意思統一して子どもが自ら選んで遊ぶ環境を整えるように心掛け実践出来た。子どもの興味や関心を探り、保育者も一緒に共感して遊ぶことでより活動を充実させることが出来た。</li><li>・遊ぶ楽しさが分かると興味が広がり、友だちの姿に影響を受け、次の遊びへの意欲も高まった。</li><li>・行事を通して様々な体験を重ね、友だちや大人（保育者・保護者・地域の方）から認められることで自信が持てるようになった。又、地域の行事に参加したり地域と共に取り組む活動も計画し実践出来た。今後は計画や準備段階から子ども達を中心に進めていきたい。</li><li>・遊び込みにくい子に対しての検討や協議が必要である。</li></ul>	
重点目標3	一人一人が安心して過ごせる居場所づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者と離れたり友だちと過ごす事に不安のある子には子どもの気持ちを受け止め、遊びに誘いかける事で安心して園で過ごせるようになった。</li><li>・クラスの枠を越え職員が子ども一人一人の要求に応える事が出来た。又、保護者と連携したり保護者の思いや願いに寄り添えるように努めた。</li><li>・生活や遊びの中で自分の思いを伝え、友だちの気持ちに気づくよう話をする機会をたくさん設けたところ、相手の話を聞く姿勢は身についてきた。</li></ul>	

## 2 改善方針

・4・5歳児の保育室のある2階にも教材室を増設したことで、保育中でも子どもの要求に応じ、材料を整えやすくなった。今後は保育室内にも十分な教材を配置し、子どもが意欲的に環境に関わるようにしたい。

・子どもの主体性を大事にした日々の取り組みが将来の生きる力に繋がっていくという点に関して重点目標が職員間でより意識できるように改善したい。



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 神前こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	遊びこむ環境作り	3
主な方策 成果と課題	<p>一人一人の子どもが今、何に興味があるのか、何を楽しんでいるかを保育の中で保育者が感じ取り、一緒に遊ぶ中で楽しさを共有することを心がけた。そのことが子どもたちの意欲的な姿に繋がっている。</p> <p>子どもたちが主体的に遊ぶ姿を目指して、遊びに使う教材の充実を図った。自分たちで考え、工夫しながら様々な教材を使って遊びを展開する姿を通して、様々な学びがあることを保護者にも伝えた。</p>	
重点目標 2	コミュニケーション力を育む	4
主な方策 成果と課題	<p>温かい雰囲気の中で笑顔で目を見てやりとりすることを職員全員で心がけてきた。園での生活で”話すこと”を大切にし、丁寧に時間を取り、互いの思いを知り合う機会を作ってきた。まずは「話したい」と思える存在に保育者がなれるよう、子ども一人一人を理解することと”聞くこと”を丁寧に行った。また、安心して自分の思いを伝えているのか、ということにも目を向け、子どもたちの声や表情、言葉に込められた思いを知り、関わることについて振り返った。引き続き、話を聞いてもらう心地良さや安心して思いを伝えることを大切にしていきたい。</p> <p>子どもは人を求める力を一人一人持っており、私たち大人が関わり愛着関係ができることで自分から人へ向かう力が発揮されていく。それはその子を大事にすることに繋がるという意識を今後も日々持ち続けて保育に努めたい。</p>	
重点目標 3	健康な心と体を育む	4
主な方策 成果と課題	<p>園庭の使い方等を工夫し、どの年齢の子もやりたい遊びが十分できるように配慮した。朝の体操やサーキット遊び、縄跳び、集団遊びなどを子どもの年齢や発達にあった環境になっているかなど、保育者間で確認しながら繰り返し遊ぶことで、子どもたちのやってみようという思いにつなげることができた。園外への散歩では、同じ場所へ繰り返し行くことで変化するものや変化しないものを見つけたり驚いたりするなど、身近な自然に親しみ豊かな感性を育むことができた。</p> <p>畑での栽培活動や自分たちで育てたものを皆で食べる活動を通し、食への興味、食べる意欲に繋がっていった。健康な体づくりとの関係に気づけるようにしていきたい。</p>	

重点目標 4	人権保育の推進を図る	4
主な方策 成果と課題	<p>人権保育推進保育教諭が中心になり、自分を語り合うことで自分を見つめ直すようにした。そのことが保育に活かされ子どもを尊重することに繋がると、いつも確認しながら職員全体で進めることができた。</p> <p>「自分が大切にされている。愛されている」と子どもたちが実感するために、一人一人がクラスの中に居場所があるか、子ども同士の関係はどうか、園内研修や保育実践を通して考え合ってきたことも良かった。なかまづくりを進めていく中で保育者は、どんな思いや願いを持っているのか、どのように仲間づくりを進めていくか、子どもの見方や捉え方について話し合う機会をたくさん持ってきた。</p> <p>人権プラザの指導主事と連携を取り、将来を見据え、今つけたい力は何か、そのために何を大事にするか引き続き考えていきたい。</p>	

重点目標 5	家庭や地域と繋がり、将来に繋がる生活力を育む中で学びに向かう力の基礎を培う	3
主な方策 成果と課題	<p>保育参観や運動会、発表会など、子どもたちや保護者の心に残るいろいろな活動を実行できた。</p> <p>また、地域の方への保育公開も少しずつ行うことができた。地域の方々との交流も増え、芋ほりやみかん狩り、絵本の読み聞かせ、文化祭での舞台発表等、様々な方の協力のおかげで貴重な体験ができた。子どもたちが地域の方に大切にされていることを実感できたことで、将来に向かって意欲的に生活していこうとする姿勢の基礎を培うことができた。実体験から学びに繋がる機会を今後も大切にしたい。</p>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの主体性を大切にした豊かな体験と遊びの充実や、身近な環境や人に親しみ自分らしさを発揮して意欲的に活動する支援についての研修を行った。活動を通して体験したことを再現して遊ぶことが、主体性を大切にした遊びの充実につながることを実践を通して確認できた。愛着形成とあそびの人的物的環境の充実を継続し、0歳からの系統立てた保育を今後も実践していく。</li> <li>・散歩、栽培、飼育など自然を意識した取組をしてきたが、園周辺の豊かな自然に触れていく活動を今後も考えていく。</li> <li>・一人一人が大切にされていると感じ、互いを認め合い大切にできる保育実践を目指し、尊敬し合えるなかまづくりをしていく。様々な園での経験や考え方を子どもを中心に据え、職員間でコミュニケーションを取り合い、同僚性を高めていく。</li> <li>・保護者・地域とのつながりを大切に、保護者と共に子どもの成長を喜び合い、課題についても考え合えるよう信頼関係を築いていく。</li> </ul>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富田こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	思考力の芽生えを育むために	3
主な方策 成果と課題	<p>○遊びや生活の中で、子どもの気付きの言葉や表情に共感したり、疑問や驚きの表現を受け止め、友だちや保育教諭と一緒に考えたり、試したりする経験を積み重ねてきた。色水遊びで気付いた色の変化を絵の具遊びに活かしたり、異年齢の関わりの中で泥団子づくりや生き物への興味・関心が広がるなど育ちあう姿が見られた。</p> <p>○二胡の演奏、ジャンベの演奏と体験、ポニー乗馬体験、絵画製作など、それぞれの分野の専門家を招き体験の機会を充実させたことで、本物に触れる感動や驚き、不思議さなどを味わうことができた。その体験が日常の遊びへの意欲と自信につながった。</p> <p>◇行事と日常の保育の活動をつなげていくことでより豊かな遊びや生活になるよう、援助や環境を工夫していく。</p>	
重点目標 2	豊かな心とたくましい体を育むために	3
主な方策 成果と課題	<p>○幼稚園交流や園外保育など歩く機会を多くもったことで、体力や最後までやり切る力が付いた。</p> <p>○サッカー教室や運動遊びの体験活動を数回取り入れた。ボールやなわとび、フープなど身近な道具を使った遊びを通して体を動かす楽しさを味わうことができた。</p> <p>○各年齢や発達段階に合わせて様々な動きを楽しめるように鉄棒やトンネル、平均台を使って遊んだり、追いかっこを楽しんだりしてきた。いろいろな遊びに興味を持ったり、意欲的に遊んだりするようになった。</p> <p>○野菜の苗を植える体験をしたことで、生長に興味を持ったり積極的に世話をしたりする姿が見られた。また、自分たちが収穫した野菜が給食に入っていると、苦手な食材も食べようとする子どもの姿が見られ食べることを楽しむようになった。</p> <p>○友だちや保育教諭と一緒に楽しい雰囲気の中で給食を食べるようにしてきたことで、「食べたい」という意欲や「おいしい」と満足感を得る体験ができた。</p> <p>◇多様な運動遊びができる環境設定の工夫を意識し、継続的に進めていく。</p>	
重点目標 3	共に輝く子どもを育むために	3
主な方策 成果と課題	<p>○安心して思いを出せるよう、保育教諭が一人一人の思いを言葉や表情・しぐさから感じ取り、スキンシップをしたり一緒に遊んだりして受け止めるようにした。その心地よさを感じたことで、それぞれの表現で伝えようとする子どもの姿が見られるようになった。</p> <p>○遊びや生活の中で、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりする機会を繰り返して作ってきた。友だちと会話のやり取りを楽しんだり、相談し合って遊びのルールを決めたり、困ったことや意見の違いがある時には保育教諭がつなげたりして、友だちと一緒にいることや遊ぶこと、遊びを進めていくことが楽しいと感じる姿が見られるようになった。</p> <p>◇「聞こう」とする力がより身につくような教育活動を工夫していく。</p>	

重点目標 4	家庭、地域との連携、協働を推進するために	3
主な方策 成果と課題	<p>○納涼祭や文化祭など地域の行事に積極的に参加した。鯨船にまつわる話を聞き、実際に曳いたことで興味を持ったり、地域の方との触れ合いを通して親しみを感じ挨拶したり、笑顔を向けたりする姿が見られるようになった。</p> <p>○いろいろな人との触れ合いを通して、温かく見守られている安心感を持つことができた。</p> <p>○写真とともに子どもたちの様子を伝えることで、園で大事にしていることや行事の様子、遊びの様子が保護者に伝わりやすくなり、園と家庭が連携して子どもの成長を見守ることができた。</p> <p>○保育参加や保護者講演会、給食試食会などを通して子どもの様子を知ってもらったことで、園と保護者が子育ての楽しさや悩みを共有する機会になった。</p> <p>◇行事参加以外で散歩に行くなど地域を知る機会を作っていくことでより親しみを感じられるようにしていく。</p>	

重点目標 5	職員の資質向上のために	4
主な方策 成果と課題	<p>○スーパーバイザー訪問研修を通して子ども理解について深く話し合い、各年齢にあった遊びの環境や再構成の仕方を学び、実践することができた。</p> <p>○学びの一体化研修では、近隣の小・中・園が互いに公開保育と事後研修を行ったことで、先を見通しながら今の育ちを十分保障していくことの大切さを学ぶことができた。</p> <p>○定期的な園内研修を通して、各保育教諭が学んだ外部研修を報告したり、事例を出して議論したりする機会を作ってきた。互いの学びが確かなものになり保育教諭一人一人の資質向上につながった。</p> <p>○幼児教育センターの研修など、職員が自身の課題を意識して主体的に計画・受講していったことで、積極的に保育・教育に活かしていくことができた。</p>	

## 2 改善方針

- ・各年齢に合わせた園外保育の年間計画を立て、日常の保育に位置づけ、地域の自然に触れたり人との温かいふれあいを持ったりする。
- ・体を動かして遊ぶ活動を日々の保育に積極的に取り入れたり、専門家を活用した活動を取り入れ、新たに子どもの興味・関心を広げたりしていく。日常の保育と特別な活動とをつなげ体を動かす楽しさを味わえるようにしていく。
- ・素話や絵本の読み聞かせなどを通して、イメージをしながら話を聞く機会を継続的に作り、聞く楽しさを味わえるようにしていく。
- ・様々な視点から子どもの姿を捉え子ども理解を深めるために定期的に園内研修を行い、職員間で日々の子どもの姿を共有し合う。また共通認識を持って保育・教育活動を進めるために、職員連携の仕方を工夫をしていく。
- ・評価・見直しをより具体的にし、計画・実践に活かしていくようにする。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 桜こども 園

### 1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学びに向かう力を育む	4
主な方策 成果と課題	<p>・子どもたちの発達や興味・関心、季節などに合わせた遊びを大切に、保育者自身も楽しみながら、環境をつくっていったことが、意欲的に遊ぶ姿につながった。遊びのコーナーづくりを工夫したことで、子ども同士がつながり、好奇心が育った。園の教育・保育に対するアンケート調査の結果においても、「身近にあるものや遊具で、試したり、工夫して遊べるようになりましたか」という項目において、「そう思う（78%）」と「おおむねそう思う（22%）」と回答した保護者が合わせて100%となるなど、高い評価が得られた。</p> <p>・保育者が子どもたち一人一人の思いを丁寧に受け止め、聴いてきたことが、表現する力、話す力、聞く力につながった。お店屋さんごっこなどでは、子どもたちからの声を大切に取り組みを進めていったことで、友だちと思いを出し合い、受け止め合いながら、意欲的に遊ぶ姿につながった。</p>	
重点目標 2	あたたかい心を育む	4
主な方策 成果と課題	<p>・保育者同士が話し合い、連携を取りながら、子どもたち一人一人を大切にしたい保育を行って行く中で、安心して自分の思いを出せるようになった。また、自ら選んだ遊びを十分に楽しむことを大切にしていこうとすることで、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、つながりができていった。園の教育・保育に対するアンケート調査の結果においても、「先生や友だちとかかわるうれしさや楽しさを感じていますか」という項目において、89%の保護者が「そう思う」と回答し、高い評価が得られた。</p> <p>・各年齢ごとの活動も大切にしつつ、異年齢の子どもたちが一緒に生活や遊びを楽しむことも大切に保育を進めていったことで、小さいクラスの子は大きいクラスの子に安心して気持ちを表現し、憧れの気持ちを育む姿があった。また、大きいクラスの子は、小さいクラスの子を思いやる気持ちを持ちながら、活動を自分たちが中心となり進めていくなど、自信を持って活動する姿につながった。</p>	
重点目標 3	健やかに生きる子どもの育成	3
主な方策 成果と課題	<p>・基本的な生活習慣において、自分でしようとする気持ちを大切に取り組んできた。園では、身支度や、当番活動などを自信を持って、自分たちで行うようになった。一方で、園の教育・保育に対するアンケート調査の結果において、「自分でできることは自分でしようとするようになりましたか」という項目において、「そう思う」と回答した保護者が54%と、他の項目と比べると評価が低かった。今後、家庭と連携を取りながら取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>・体操やダンス、サーキット遊び、戸外での遊び等の充実を、子どもたちの興味・関心をもとに継続的に行ってきた。園の教育・保育に対するアンケート調査の結果においても、「体を動かす遊びに興味を持つようになりましたか、または体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」という項目において、「そう思う」と回答した保護者が90%と、高い評価が得られた。</p> <p>・園の畑を活用し、年間を通じて栽培活動を行った。季節を感じたり、自然の不思議さに心を動かされる姿や、苦手な物でも、友だちと一緒に食べてみようとする姿につながった。</p>	



重点目標 4	保護者や地域との連携・子育て支援の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の登降園時に子どもの様子を伝えると共に、おたよりやドキュメンテーションの掲示などを通して、子どもたちにどんな力がついてきたか、つけていきたいのかを伝えてきた。今年度は、こども園としてスタートした1年目であり、1号認定児、2号認定児がともに過ごす保育の良さを伝えることができた。一方で、園の教育・保育に対するアンケート調査の意見の中には「もっと園での様子を教えてほしい」という意見もあり、今後更に、保護者と共に子どもの成長や園のビジョンなどについて、話す機会を大切にしていく。</li> <li>・地域と連携して、芋ほりや焼き芋などの取り組みを行い、子どもたちの経験をより豊かにすることができた。子ども達はいろいろな人と関わり、受け止めてもらったり、大切にされていることを実感したりすることができた。</li> <li>・あそぼう会（子育て支援事業）を楽しみにしている人も多く、参加者も増えた。今後も、相談にのったり、在園児との交流を取り入れ、未就園児の親子が安心して楽しめる場を保障していきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

○園では、自分たちのことを自分たちでしようとする姿や、遊びを子どもたちが中心になり進めていくことに楽しさや満足感を感じている姿があるが、保護者へのアンケート調査の「自分のことは自分でしようとする」という項目において、「そう思う」と回答したのが54%と他の項目に比べて低かった。今後、家庭との連携を更に深め、園でついた力を違う環境や家庭においても発揮できるように取り組んでいく。

○近隣の小学校と、子ども同士の交流が持てなかった。今後、小学校と連携を取りながら、子どもたちの段差のない就学に向けて、活動を進めていく。